

令和7年度地域連携支援事業補助金 事業報告書（ダイジェスト版）

プロジェクト名	生成 AI を用いた脳損傷後のコミュニケーション支援
代表者	大橋 良浩
連携先	株式会社 Eyes, JAPAN・京都市地域リハビリテーション推進センター
実施期間	令和7年7月10日～令和8年1月31日
事業の背景・目的	<p>申請者は言語聴覚士として、失語症当事者の社会的孤立、特に若年・中年層の低い復職率という社会的損失を課題視してきた。</p> <p>これまでの言語訓練アプリの監修を通じ、この課題解決には訓練だけでなく、実用的なコミュニケーションを支える支援アプリが不可欠であると確信し、本研究開発に着手した。</p>
事業内容	<p>コミュニケーション支援アプリを研究開発し、失語症者が言葉の壁を意識せずに社会とつながるインクルーシブな世界の実現を目指す。当事者の社会参加を拡大させることで、単なる経済的自立だけでなく、生きがいや自己実現を支援する。</p> <p>また、本研究開発アプリが会話への不安を和らげ、当事者の外出や社会活動を促すことは、地域コミュニティの活性化にも寄与する。将来的には、吃音や難聴、パーキンソン病など、発話に困難を抱える人々へ対象を広げることで、誰もが円滑な対話を通じて自分らしく生きられる社会基盤の構築に貢献する。</p>
事業の成果	<p>プロトタイプの当事者・専門職ヒアリングを実施し、医療機器展示会での本研究開発の展示を通して様々な意見を集約できた。これらは間もなく完成する2次プロトタイプへ反映されている。</p>
今後の課題・展望	<p>2次プロトタイプ完成後、当事者・専門職へのユーザビリティ検証を実施し、事業化を目指す。</p>